

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ジャコウアゲハ	アゲハチョウ科	優雅な飛び方と赤い腹部	○	○	○	全国

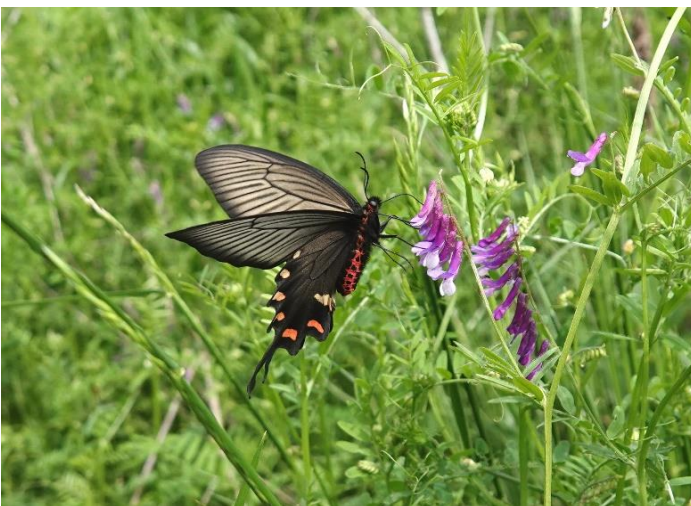
成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○ 食草	食樹		発生回数/年			越冬形態					
ウマノスズクサ			3			蛹 (サナギ)					



ハイム 9月1日 (2019年) ♀は暗灰色で♂は黒い



相模原市 6月1日 (2019年) ノアザミで吸蜜



川崎市 (多摩川土手) 4月23日 ♀ (2022年)
ナヨクサフジで吸蜜



ハイム (川崎市) 4月5日 (2022年)
飼育羽化 (2021年10月下旬終齢幼虫)

春から秋まで見られるアゲハチョウで、アゲハというミカン類の葉を食べる印象が強いですが、このジャコウアゲハは「ウマノスズクサ」というツル性の草の葉を食べます。多摩川土手はこのウマノスズクサが多いため一風変わった幼虫もあちこちで見られます。「ジャコウ」はオスの腹端から麝香（じゃこう）のような香りがするためですが、幼虫以降体内にウマノスズクサの毒素を蓄え、一度この蝶を食べて中毒を起こした鳥やその他の捕食者はそれ以後近づかないことから外敵には強い蝶です。

よく似たオナガアゲハ、クロアゲハ、アゲハモドキ（蛾）はこのジャコウアゲハに擬態して身を守っていると言われていました。また、蛹は江戸時代の怪談「番町皿屋敷」に出てくる大事な皿を割ったために後ろ手に縛られている「お菊」という女中さんの姿を髣髴させるとして「お菊虫」と呼ばれます。



川崎市（多摩川土手） 10月24日（2021年） 終齢幼虫とウマノスズクサ



「お菊虫」と呼ばれる蛹
川崎市 11月12日（2021年）

後ろ手に縛られている「お菊」

